

藤原鎌足埋葬の可能性が高い阿武山古墳 葬送手順をCGで初めて全容公開 2/14(土)10:00～ 帝塚山大学公開講座

帝塚山大学(学長:奥村由美子 所在地:奈良市帝塚山7-1-1)は、2月14日(土)、東生駒キャンパスにて特別講座「図解でわかる古代の葬送儀礼 ― 藤ノ木古墳と阿武山古墳 ―」を開催します。

本講座は、牟田口章人・帝塚山大学考古学研究所特別研究員を講師に迎え、藤原鎌足が埋葬されている可能性が高い阿武山古墳について、発見当時の写真や記録資料をもとに作成した葬送手順のCG復元図を初めて公開し、その全容を紹介します。

阿武山古墳(大阪府高槻市)は1934年に発見され、石室内には壮年男性の遺体が漆塗りの棺に納められていることが確認されました。しかし、発見後まもなく埋め戻され、現在は内部を観察することができません。牟田口特別研究員は1982年から同古墳の研究を継続し、2024年度には画像解析により、棺内に冠位制度(645年)に基づく「大織冠」が納められていた可能性を示しました。これにより、被葬者が藤原鎌足である可能性が高いことが示唆されています。

本講座では、1936年刊行の発掘報告書および当時の写真資料をもとに、阿武山古墳の埋葬過程をCGで図解復元します。また、同様に未盗掘で発見された藤ノ木古墳(奈良県斑鳩町)と比較し、6世紀～7世紀の王権中枢層に共通する葬送儀礼の特徴を検討します。文献には記録が残るものの、具体的な手順が明らかになっていない殯(もがり)についても推定し、藤原鎌足級の人物がどのような手順で葬られたのかを示します。



遺体納棺時の比較画像

(左:藤ノ木古墳 右:阿武山古墳)

【CGについて】

阿武山古墳の埋葬手順については、京都帝国大学文学部の梅原末治助教授が『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告 第七輯』(1936年)に、棺内の状況を記録しています。梅原氏は、棺底に敷物を敷き、頭部に枕を置いて遺体を納め、朱を撒布し、遺体の上下に厚い布状のものを重ね、さらに蓋を閉じる直前に遺体全体を薄い布で覆った痕跡が認められると記しています。

本講座で公開するCG復元図は、この記録を精査し、東京国立博物館名誉学芸員・沢田むつき氏の指導を受け、次の手順を想定して作成しました。

- ① 棺底に茵(しとね)または衾状の敷物を敷く
- ② 衣類を着せる
- ③ 遺体を包む布をかける
- ④ 掛布または衾(ふすま)を重ねる
- ⑤ 蓋を閉じる直前に棺身全体を覆う布をかける

直前のご案内で恐縮ですが、貴社メディアにおかれましても、ぜひ趣旨をお汲み取りいただき、取材ならびに報道のご協力をよろしくお願い申し上げます。

※高解像度の画像データをご提供可能です。

図解でわかる古代の葬送儀礼 藤ノ木古墳と阿武山古墳

【日時】2026年2月14日(土)

10:00～11:30(受付9:30～)

【場所】帝塚山大学 東生駒キャンパス
1号館1301教室

【講師】牟田口章人
考古学研究所 特別研究員

【定員】200名

本件に関する
お問合せ

帝塚山大学 入試広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1

Tel:0742-48-9149 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp(担当:鈴木)